

すわみつえ通信

No.137 2020年8月24日(月)

日本共産党鴻巣市議会議員

諏訪 三津枝



連絡先 鴻巣市赤見台3-2-7
TEL: 596-9440 FAX: 507-4151
携帯: 080-5039-2785
E-mail: mi-suwa@ezweb.ne.jp
mitsue-suwa@jcom.zaq.ne.jp

WEBで

すわみつえ



ホームページで、すわみつえの政策とお約束をご紹介します。

福祉・教育最優先の街づくり 市民の声を生かし いのちとくらしを守る市政に

コロナ禍で地域住民との意見交換ができないのであれば 笠原小「廃止」スケジュールは凍結・撤回を！

市教育委員会は笠原小学校通学区の笠原・郷地・安養寺の自治会長と7月25日に懇談をしました。19自治会の内14名の参加であったそうです。「廃校に向けた保護者会を行うなど地域を分断することは認められない」といった意見が出たとのことです。

6月18日の定例教育委員会会議で「廃校は、地域に丁寧な説明しながら進める」としています。自治会長との懇談が、廃校にかかわる重要な課題を説明するうえでとても「丁寧」とはいえません。

「コロナ禍で住民の皆さんが一同に集まらないということであれば、分散で何回でも開いて、住民の皆さん



元荒川のほとり、豊かな木々に囲まれた笠原小学校

との丁寧な意見交換をすべきです。それができないのであれば「廃止」に向けたスケジュールは凍結・撤回すべきです。

教育長名で「笠原地区にお住まいの皆さま」への依頼

広報かがやき8月号とともに、笠原地区の方々に市教育委員会は「笠原小学校の適正配置等に関する意見・提案等」について（依頼）の文書を配布しました。「本来であれば意見交換会等を実施したいと考えていた。」「コロナ感染拡大防止の観点から意見・提案は裏面の記入欄で返信するよう」という内容です。

地域の方々から「学校を存続するのかどうかではなく、廃校ありきの『統廃合に関するスケジュールや送迎、学校跡地の活用』について意見を求める内容で、このアンケートそのものが許せない」と怒りの声が届いています。市教委のあまりにも前のめりの行いを質していかねばなりません。

小規模校は分散登校をしないで済んだ

3月2日から3カ月間、小中学校は一律休校となりました。保護者の混乱は大変なものですし何より子どもたちの不安は計り知れないものです。

一律休校後は3密を防ぐため分散登校が行われましたが、笠原小・大戸小・共和小・広田小の4校は分散登校を行わずに済みました。

今こそ少人数学級実現と小規模校の存続を

40人学級では子どもの感染を防ぐための身体的距離はとれません。コロナ禍の今こそ、子どもたちひとりひとりに目が行き届く少人数学級にすることが求められています。

学校をなくしてからでは少人数学級は実現できません。全国の各界・校長会から20人〜30人の少人数学級の要請が出ています。鴻巣市教委が行っていることは、こうした動きと相反するものです。



子ども一人一人を大切にする
感染症にも強い
少人数学級を

俳句コーナー
花火終えもどろし闇の
蛍かな
瑠璃子

毎週朝 駅頭においてホットなニュース「すわみつえ通信」をお届けします。

(月)吹上駅南口 (火)北鴻巣駅東口 (水)北鴻巣駅西口 (木)吹上駅北口 (金)鴻巣駅西口

研修の夏

「コロナ危機から生まれる新しい教育の模索」

8月19日(水)、日本共産党文教委員会責任者の藤森毅氏を講師に埼玉県の地方議員が参加する「埼玉地方議員会議」が初めてオンラインで開催されました。すわみつえ市議は中部地区委員会(上尾市)で受講しました。

研修は、①必要な3カ月の一律休校、②「学校再開にあたっての緊急提言」について、③「少人数学級をプレゼントしよう」の提案が局面を動かした、④コロナ危機—国民の変化と日本共産党の4つのテーマに沿い、この間、子どもたちの現状は、手厚く柔軟な教育を求めていることが説かれました。

とりわけ、少人数学級をめぐる動きは

- 5月22日 日本教育学会が教員10万人増を提案
- 6月22日 全国連合小学校校長会会長「20～30人学級」
- 6月30日 公明党が首相に30人学級を含む要望書
- 7月8日 全国知事会から3首長会会長が少人数学級を要請
- 7月17日 政府の骨太方針に「少人数」初めて盛り込む

「学力テストの点数が上がらない」エビデンスがないと言っていた財界が、少人数学級に否定的でない画期的な情勢になっているということです。

例年は1泊2日で全県の地方議員が集まり、休養と交流を兼ねた研修ですが、今年はコロナ禍において、半日のオンライン研修でした。タイムリーで有益な内容でした。9月議会に必ず生かしていきます。



8月19日、中部地区委員会会議室(上尾市)

「ぬいぐるみ感」増してます レッサーパンダ赤ちゃん 2匹 那須どうぶつ王国



7月に誕生したレッサーパンダの赤ちゃん2匹

那須町大島的那須どうぶつ王国は8月13日、レッサーパンダの雄の赤ちゃん2匹が7月18日に誕生したと発表しました。

両親は、同園で生まれた雄の与一(よいち)と2016年に旭山動物園(北海道)から来た雌の栄栄(ロンロン)。現在は栄栄が巣箱で育て、赤ちゃんの体長は約20センチ、体重は約585グラム、659グラムまで成長した。

一般公開は今秋を予定。飼育員の二川原美帆(にがわらみほ)さん(24)は「日々縫いぐるみ感が増していてかわいい。親子や兄弟で遊ぶ姿を観に来てほしい」と話しています。

【下野新聞(宇都宮市)8月14日付】

県議団主催の豪雨災害対策研修会に参加

災害時の公的支援 は被災者の権利

8月17日(月)、さいたま共済会館で開催された、塩川鉄也衆院議員を講師に日本共産党埼玉県議団が主催の豪雨災害対策研修会に参加しました。

塩川鉄也衆院議員は1時間の講演で、公的支援は被災者の権利であること、災害時にこそ憲法の「健康で文化的な最低限度の生活」が保障されるよう、自然災害への備えを国民任せにする「自立自助」論や、小規模災害を自治体任

8月17日 さいたま共済会館
(写真中央) 塩川鉄也衆院議員



せにする「国と地方の役割分担」論を批判しました。

昨年の台風19号災害における堤防決壊の教訓と対応策についてでは、国・県管理河川合わせて142箇所が堤防が決壊(埼玉では7箇所)し、その要因の大半が「越水」によるものであったこと。治水対策として、法面補強で堤防の浸食を抑える「危機管理型ハード対策」の改良版「耐越水堤防IIアーチャー・フロンティア堤防」を国交省が検討を始めたことが話されました。

毎年のように豪雨災害があります。被災者の権利としての公的支援を考えるのは政治の役割です。防災対策に真剣に取り組んでいきます。